

「名音小学校のがやまきづくり伝承活動の取組」

1 学校名

大和村立名音小学校

2 学年・人数

1年生～6年生（7人）

3 日時・場所

(1) 事前活動の日時（場所）

平成27年5月・6月（各教室）（3～6年教室「総合的な学習の時間」）

(2) 制作活動の日時（場所）

平成27年6月13日（土）2・3校時（本校多目的ホール）

（1・2年：生活科，3～6年：総合的な学習の時間）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称： がやまき

(2) 由来

「がやまき」とは、旧暦の5月5日の端午の節句に、男の子の無病息災や健やかな成長をいのり、もち米と「がや」という植物で作る飾りのことで、家の玄関などに飾りつける。端午の節句といえ、こいのぼりや武者人形を飾るのが一般的となっている現在においては、とてもめずらしく貴重な風習である。中国では5月5日に「もち米を笹でつつんだ飾り」を作る風習が残っているそうである。このことから「がやまき」は大昔中国から伝わってきたのではないかと考えられている。三国志の時代に日本に伝わってきたと記した記録も残っているそうである。

(3) 構成等

作り方は、3つの工程からなる。

第1工程 もち米を大人の親指大にまるめたものを3つ作る。

※ この時、手をぬらしておかないともち米がくっついてしまう。

第2工程 がやでもち米をつつみ、麻ひもで結んだものを3つ作る。

第3工程 3つをつなぎ合わせ、上を結ぶ。

完成したときの形が人によって少しずつ違うが、全く気にする必要はない。

願いをこめ、ほどけないように作ることが大切である。

5 保存会や地域との連携の具体

がやまきづくりは、集落のむつみ会（高齢者の会）が中心となって子どもたちに伝承している。むつみ会に年齢は達していない地域の方や保護者も参加し、子どもとともにがやまきをつくり、地域の伝承活動に取り組んでいる。材料となる「がや」という植物は、今年度から、保護者が準備するようになった。

今年度は、土曜授業の中で、がやまきづくりを実施した。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

総合的な学習の時間に高学年はがやまきづくりの由来について、中学年はその作り方について調べ、制作日に発表した。制作活動は、高学年になるにしたがって、これまでの経験があるので、できるだけ自分の力で作成するようにしている。しかし、手助けが必要な子どもも多く、各グループにむつみ会、地域の方、保護者を配置し、子どもたちへのアドバイスをしてもらいながら、制作活動をするようにした。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



制作の様子



完成後の記念撮影

8 参加児童生徒・むつみ会・保護者等の感想・意見

児童： 初めてのがやまきづくりだったけど、おばあさんに手伝ってもらってよかった。もち米をカヤで包むのが難しかったけど、うまくできた。自分の机に飾りたい。

むつみ会： がやまきづくりを学校行事でするようになり、受け継ぐことができるようになった。少ない人数だが、子どもたちには健やかに育てほしい。

保護者： 来年度も、がやまきづくりに使うカヤは保護者が取るなど、積極的に協力したい。